第 137 回日本森林学会大会での関連集会の情報

1. 森林 GIS フォーラム学生研究コンテスト
   3 月 17 日(火)17:00～19:00、つくば国際会議場 404 号室
2. 第 32 回森林昆虫談話会
   3 月 19 日(木)9:00～12:00、筑波大学 3A 棟 3A405 教室
3. 森林計画学会総会・春季シンポジウム
   3 月 19 日(木)9:30～16:30、文部科学省研究交流センター国際会議場
4. 林業経済学会 2026 年春季大会
   3 月 19 日(木)8:40～17:30、筑波大学 3A 棟 3A202 教室
5. 森林立地学会現地研究会
   3 月 19 日(木)8:00～17:00、森林総合研究所常陸太田試験地
6. 第 15 回森林遺伝育種シンポジウム
   3 月 19 日(木)9:00～12:00、筑波大学 3A 棟 3A209 教室
7. 森林利用学会総会・シンポジウム
   3 月 19 日(木) 9:30～16:30、筑波大学 3A 棟 3A306 教室
8. 集まれ森林水文 2026
   3 月 19 日(木)9:00～12:00、筑波大学 3A 棟 3A308 教室
9. 第 26 回森林施業研究会シンポジウム
   3 月 19 日(木)9:00～12:00、筑波大学 3A 棟 3A203 教室
10. 第 2 回森林教育実践研究会
    3 月 19 日(木) 9:00～12:30、筑波大学野外運動実習場「野性の森」
11. 樹木病害研究会
    3 月 19 日(木) 9:10～11:50、筑波大学 3A 棟 3A312 教室

【1】森林 GIS フォーラム学生研究コンテスト

1. 日時：　2026 年 3 月 17 日（火）17:00～19:00
2. 会場：　つくば国際会議場 404 号室
3. テーマ：　GIS を活用した研究を行う学生の育成と交流
4. 内容：　森林 GIS フォーラムでは、次世代の森林 GIS を担う学生の育成と交流の場として、学生研究コンテストを開催しています。森林・林業分野における空間情報（GIS・GNSS 等)、新たな計測技術（写真・レーザー等）の応用などに関わる研究を行っている学生に研究紹介をしていただき、優秀賞の表彰などを行います。
5. 申込方法：　聴講は申込不要。発表は森林 GIS フォーラムより別途募集。詳細はウェブサイト（ https://fgis.jp/ ）およびメーリングリストで周知します。

6. 連絡先：　當山啓介（岩手大学）toyama[at]iwate-u.ac.jp

【2】第 32 回森林昆虫談話会

1. 日時：　2026 年 3 月 19 日（木）9:00～12:00
2. 会場：　筑波大学 3A 棟 3A405 教室
3. テーマ：　樹木のマイクロハビタットと生物多様性保全 : これからの森林管理
4. 内容：　生物多様性に配慮した林業経営及び森林管理は，今後取り組むべき重要課題の一つに位置付けられる。この流れにおいて，樹木のマイクロハビタットは森林の空間構造に複雑さをもたらし，生物多様性に貢献しうる要素の一つとして注目されている。談話会では、ネイチャーポジティブや林野庁の林業経営指針といった近年の森林管理と生物多様性をめぐる動向を簡単に紹介し，様々な樹木のマイクロハビタットの概要とそれに支えられる森林生物の事例について話題提供をしていただく。
5. 話題提供：

・「樹木のマイクロハビタットとは～生物多様性保全の管理指標としての意義～」
　山中 聡（森林総合研究所北海道支所）
・「鳥類営巣樹洞の無脊椎動物群集と人工樹洞を用いた調査の試み」
　浅野 亮太（白梅短期大／東京農工大）
・「樹上の小さな水界：滞水樹洞がつくる生態系の多様性」
　新川 颯輝（東京農工大）
・「着生植物が生み出す昆虫群集の多様性」
　中辻 宏平（東京農工大）
・「海鳥の営巣する海洋島における着生植物の役割
　～ファシリテーションから物質循環へ～」
　中島 一豪（中央大理工学研究所）

6. 連絡先：　綾部慈子（森林総合研究所東北支所）ayabe_yoshiko050[at]ffpri.go.jp

※ 3 月 18 日夜につくば市内で懇親会を予定しています。
※ 談話会／懇親会参加の方は 3 月 3 日までに下記リンクから申し込みをお願いします（談話会は当日の飛び込み参加も可能）。
https://forms.gle/kRHUwn9EsFnmWLiH7

【3】森林計画学会総会・春季シンポジウム

1. 日時：　2026 年 3 月 19 日（木）　9：30～16：30

9:30～12:00　総会（今年度の活動・決算報告、次年度の活動報告・予算の審議、森林計画学会各賞の授賞式および受賞者講演）
13:30～16：30　シンポジウム

2. 会場：　文部科学省研究交流センター国際会議場（つくば市竹園 2-20-5）
3. タイトル：　調整中
4. 内容：　調整中
5. 連絡先：　北原文章（森林総合研究所）kitahara_fumiaki390[at]ffpri.go.jp

【4】林業経済学会 2026 年春季大会

1. 日時：　2026 年 3 月 19 日（木）　8：00～18：00
   8：40　開場
   9：00～12：00　趣旨説明、報告（3 人）、コメント（1 人）
   12：00 ～ 13：30　休憩
   13：30 ～ 16：30　総合討論
   16：30 ～ 17：30　定期総会
   18：00 ～　懇親会
2. 会場：　筑波大学 3A 棟 3A202 教室
3. テーマ：　「林業事業体の基本問題と基本対策」
4. 開催主旨：　人工林資源の成熟と国産材需要の高まりを背景に主伐による素材生産拡大の局面を迎えている。第 1 に、これまでの素材生産業をめぐる議論から、日本の素材生産業がどのような性格の「資本」なのか、2000 年代以降の素材生産業の発展（生産性の向上）がどのような構造変化によって実現したのか、日本の素材生産業は現在どの段階なのかを明らかにする。第 2 に、森林組合がこれまでに果たしてきた役割をふまえ、日本林業が新たな段階を迎える中で、森林組合には何が求められるのか、所有者の協同組合としての有利な販売と資産の維持、地域の森林資源の保全を担う公的側面、私益と公益をつなぐ存在としての森林組合の新たな役割を明らかにする。第 3 に、森林所有の空洞化の弊害として無断伐採、主伐－再造林放棄が顕在化する状況において、森林資源の持続性や地域の災害防止といった面から素材生産事業体には事業性だけでなく公益性を兼ね備えることが求められるという立場から、素材生産事業体の所有者、土地、地域に対する働きかけなどの実態把握を通じて素材生産事業体の社会性の現在地、素材生産事業体の行為規範と今後の課題を明らかにする。
5. 報告者・コメンテイター・座長等：

・第 1 報告：伊藤幸男（岩手大学）
　「素材生産業の展開構造と現段階」（仮）
・第 2 報告：奥山洋一郎（鹿児島大学）
　「主伐・再造林期における森林組合」（仮）
・第 3 報告：御田成顕（森林総合研究所）

「素材生産事業体の行為規範の検討:森林所有の空洞化と主伐に着目して」(仮)
・座長：藤掛一郎（宮崎大学）
・コメンテイター：　＜当日登壇＞早尻正宏（北海学園大学)、＜後日誌上＞小菅良豪（にちなん中国山地林業アカデミー)、尾分達也（北海道大学）
・司会：興梠克久（筑波大学）
6. 大会参加費：　社会人 1,000 円、学生 500 円（当日会場徴収、現金のみ）
7. 懇親会：　2026 年 3 月 19 日（木）18 時開始予定
・場所：　筑波大学 1A 棟食堂
・参加費：　社会人 4,000 円、学生 2,000 円（当日会場徴収、現金のみ）
8. 連絡先：　興梠克久（筑波大学）kohroki.katsuhisa.gu[at]u.tsukuba.ac.jp

【5】森林立地学会現地研究会

1. 日時：　2026 年 3 月 19 日（木）8:00～17:00
2. 場所：　森林総合研究所常陸太田試験地（茨城森林管理署管内堂平国有林 118 林班内)、集合・解散場所は JR 常磐線ひたち野うしく駅・つくばエクスプレスつくば駅
3. テーマ：　森と水の関わり～長期森林理水試験地の巡検から～
4. 内容：　今回の現地研究会は、茨城県常陸太田市・森林総合研究所常陸太田試験地（茨城森林管理署管内堂平国有林）で開催します。常陸太田試験地では、山林局（現林野庁）による日本初の水源涵養比較試験のため、明治 37（1904）年に量水試験区が設置され、明治 39（1906）年より水文観測が開始されました。大部分の比較観測は明治 45（1912）年に打ち切られた中で、当時広葉樹林内に設置されていた試験区では観測が継続され、大正 4（1915）年に広葉樹の皆伐が行われ、大正 8（1919）年まで伐採前後の水源涵養比較試験が継続されました。その後、しばらく観測が中断していましたが、昭和 55（1980）年に当時の広葉樹林内の試験区と同じ場所に量水堰が再設置され、現在まで流域内各所にて種々の個別水文観測が行われています。

   今回の現地研究会では、常陸太田試験地に関する過去から現在までの背景、歴史、試験地概要、既存成果等についての話題提供を予定しております。長期森林理水試験地の現場において、現地調査に関わってきた水文研究者から、森と水の関わりに関する研究の最新の成果も含めたお話を聞くことができる貴重な機会です。森林立地学に関わる皆様の交流・意見交換の場となることを期待しております。多数の皆様のご参加をお待ちしております。
5. コーディネーター：　小田智基・岩上翔（森林総合研究所森林防災研究領域）
6. 講師：小田智基・岩上翔（森林総合研究所森林防災研究領域）
7. 定員：　最大 40 名程度（大型バス 1 台の予定）（要事前登録、参加費：一般

5,000～6,000 円程度、学生・PD 割引あり）

8. 申込方法：　本研究会は会員・非会員の区別なくお申込みいただけます。参加希望の方は、3/2(月)までに下記の google フォームよりご登録をお願いいたします。多数の皆様のご参加をお待ちしております。
https://docs.google.com/forms/d/e/1FAIpQLScYLo-hqP9CvWMyVT2Gnndy_1MoY66WTJicHoee_XVE24sKrg/viewform
9. その他：　雨具・長靴を各自用意（雨天決行・荒天中止）
10. 連絡先：　小野賢二（森林総研東北支所）ono_kenji820[at]ffpri.go.jp

【6】第 15 回森林遺伝育種シンポジウム

1. 日時：　2026 年 3 月 19 日（木）9:00～12:00
2. 会場：　筑波大学 3A 棟 3A209 教室
3. シンポジウムテーマ：　日本列島に分布する森林樹木の集団ゲノミクス
4. 内容：　わが国の森林樹木を対象とした集団遺伝学でも、すでに、次世代シーケンサーを利用し、ゲノムワイドな多数の多型データ（主に SNP）を取得して解析する「集団ゲノミクス」の時代に突入している。盛んに行われてきたマイクロサテライトを用いた研究は、過去のものになりつつある。森林樹木のような非モデル生物にも集団ゲノミクスの研究が行われるようになった一つの要因は、RAD-seq や MIG-seq などの方法が開発されたからである。このような方法は、ゲノムの一部をシーケンスして多型データを得る「ゲノム縮約解読法」と呼ばれている。将来的には、参照ゲノム配列を利用して、全ゲノムをリシーケンスして多型データを得て解析する「全ゲノム解析法」が主流になることが期待されているが、この方法を利用した研究も出始めている。森林樹木の集団ゲノミクスの研究によって、これまで解明が困難であったどのようなことが解明された（される）のであろうか。
　本シンポジウムは、日本列島に分布する森林樹木を対象とした集団ゲノミクスの分野において、どのような研究が行われ、どのようなことが解明されてきたかなどの研究情報を共有し、将来展望を考える場としたい。
5. 話題提供：

・陶山佳久（東北大学大学院農学研究科）・髙橋大樹（九州大学大学院農学研究院）
「日本産針葉樹全種の遺伝的多様性統合解析」
・内山憲太郎（森林総合研究所）
「気候変動と遺伝的オフセット：スギ集団ゲノミクスによる将来適応評価」
・賴 承筠・戸丸信弘（名古屋大学大学院生命農学研究科）
「ブナにおける気候勾配に関連した自然選択の推定」
・永光輝義（森林総合研究所）

「共通圃場研究で明らかになった海岸環境に適した形質に関連する遺伝子のカシワからミズナラへの浸透」

・増田和俊（東京大学大学院理学系研究科）

「全ゲノム解析から探る海洋島固有種の起源・集団動態と性表現進化：ムラサキシキブ属における研究事例」

6. 連絡先：　戸丸信弘（名古屋大学）tomaru[at]agr.nagoya-u.ac.jp

【7】森林利用学会総会・シンポジウム

1. 日時：　2026 年 3 月 19 日（木）9:30～16:30
   9：30～　理事会、10：40～　総会、13：00～　シンポジウム
2. 会場：　筑波大学 3A 棟 3A306 教室
3. テーマ：林業労働安全の新展開－機械化・無人化・無線通信の可能性－
4. 内容：労働科学は、労働者の心身の健康と生産性の向上を目指し、労働の質、環境、組織、方法などを生理学、心理学、衛生学などの科学的手法を用いて総合的に研究する学問分野です。森林労働科学では、労働の生理的負担と振動障害から始まり、作業姿勢、林業機械の操作性、心理的負担などに研究範囲が広まり、現在は労働安全の研究が主流となっています。基調講演では、このように幅広い森林労働科学の国内外の研究動向を紹介し、これからの研究展開に求められる課題を整理します。パネルディスカッションでは、現在進められている林業機械のリモート化と自動化の方向性によって期待される労働安全の効果について、産官学のパネリストから話題提供があり、新たに考えられるリスクと対策など今後の研究課題についてディスカッションを行います。
5. 申込方法や詳細は、森林利用学会 HP に掲載します。
6. 連絡先：　中澤昌彦（森林総合研究所）nakazawa_masahiko280[at]ffpri.go.jp

【8】集まれ森林水文 2026

1. 日時：　2026 年 3 月 19 日（木）9：00～12：00
2. 会場：　筑波大学 3A 棟 3A308 教室
3. テーマ：　水はどのように移動し使われるのか：植物との相互作用
4. 内容：　森林水文に関する研究の情報交換を行います。どなたでもご参加いただけます。今回は「水はどのように移動し使われるのか：植物との相互作用」をテーマに，JSPS 外国人招へい研究者として来日する Llorens 博士の基調講演を行うと共に，最近出版された論文紹介も行います。ポップアップでは，現在取り組んでいる研究について，参加者に短い時間で紹介してもらいます。
5. 基調講演：

Pilar Llorens 博士（スペイン国立研究評議会 環境評価・水研究所（IDAEA-CSIC））「Rainfall interception in Mediterranean environments. From fluxes measurement to process understanding（地中海環境下での遮断蒸発：フラックス計測からプロセス理解まで）」

※　Llorens 博士は欧州の森林水文学をリードする存在で、特に、森林樹冠による降雨分配プロセスと、その分配後に起きる林内の土壌水分動態について研究を推進しています。

6. 最新の水文研究紹介：

・久保田多余子（森林総合研究所）「年輪を用いて長期に蒸散量を推定する試み」
・勝浦柊（国際農林水産業研究センター）「安定同位体を用いた樹木の吸水深度の解明」
・南光一樹（東京農工大学）「ミクロからマクロで水のゆくえを追いかける」
・白木克繁（東京農工大学）「立木密度－樹冠遮断率グラフの点がバラバラになるのは、これが理由ってことでいいんじゃないかな？」

7. ポップアップ：

・企画者：　篠原慶規（宮崎大学）、井手淳一郎（千歳科学技術大学）、佐藤貴紀（東京農業大学）、玉井幸治（森林総合研究所）、久米朋宣（九州大学）、五味高志（名古屋大学）
・申し込み：　当日参加も歓迎ですが，ポップアップでの発表及び懇親会（3/18夜）の参加希望者は事前申し込みをお願いします。（3/6 締切）
https://forms.gle/Uqyu7BDuYDqsbJJPA

8. 連絡先：　篠原慶規（宮崎大学）shinohara[at]miyazaki-u.ac.jp

【9】第 26 回森林施業研究会シンポジウム

1. 日時：　2026 年 3 月 19 日（木）9：00～12：00
2. 会場：　筑波大学 3A 棟 3A203 教室
3. テーマ：　「森林管理の現場が求める施業技術をどう示し、どう伝えるか」
4. 内容：　市町村森林計画の策定にあたって，市町村が主体となって地域の森林づくりに関する長期的な構想を策定することが求められるようになった．しかし，そのために必要な技術と知識を持った人材は非常に限られている．森林総合監理士（フォレスター）には，こうした現状を改善するための役割が期待されている．これまで林業においては，伐期の長短，育林コスト低減技術，育種など，様々な技術上の選択肢が提唱されてきた．しかし，森林計画の立案において，フォレスターが「どこで」「何を」行うべきかを判断するための科学的根拠は十分に示されてきたとは言えない．さらに，森林づくりの構想や具体的な管理計画が策定されたとしても，土地所有者の意向など多様

な社会的要素も影響するため，構想の実現には多くの課題がある．

近年，森林経営計画を支援する技法やツールは充実しつつある．しかし，これらはあくまで「山を見る目」を補う道具であり，地域振興や森林づくりといった，より広く長期的な理念に基づく本来の目的を達成するための手段に過ぎないことを認識すべきである．また，計画は策定できても，その計画を実行するには上記のような様々な課題がある．

本シンポジウムでは，こうした課題を踏まえつつ，森林づくりを実際に現場で進めるフォレスターを支えるために有効な技術とは何か，またフォレスターが求めるもの，特に意思決定を支える科学的根拠とは何かを考えたい．また，フォレスターに限らず，市町村の林務課職員など林業に携わる人材への技術的支援を，研究者・技術者・教育関係者らがどのように進めるべきか，森林施業研究会に求められる役割も含めて議論したい．

5. 話題提供者（敬称略）：
   櫃間岳（森林総合研究所 森林植生研究領域）
   佐藤恒治（広葉樹を暮らしに活かす山形の会 共同代表）
   小森胤樹（フォレスターズ株式会社　代表取締役）
6. 詳細は森林施業研究会ホームページに後日記載します．
   https://f-segyo.main.jp/baser/sympo
7. シンポジウムへの事前参加申込みは不要．会場にお出で下さい．
8. 懇親会を 3/18（水）に開催します．こちらは事前の参加申込みが必要です．
9. 連絡先：　櫃間岳（森林総合研究所）hitsuma_gaku830[at]ffpri.go.jp

【10】第 2 回森林教育実践研究会

1. 日時：　2026 年 3 月 19 日（木）　9:00～12:30
2. 場所：　筑波大学野外運動実習場「野性の森」
3. テーマ：　「筑波大学野性の森のフィールドから森林教育の発展を考える」
4. 内容：　森林教育のさらなる発展を目指し、昨年度の札幌開催に引き続き、第 2 回森林教育実践研究会を開催します。今回の日本森林学会大会がつくば市開催ということもあり、森林教育の近接分野である「野外教育」の研究と実践、人材育成を、我が国で長年リードしてきた、筑波大学野外運動研究室の全面協力のもと、研究会を実施するはこびとなりました。

   筑波大学のキャンパスには、「野性の森」という実習施設があります。野外教育を専攻する学生の実践や研究の場として、全学共通体育科目の授業の場として、一般市民を対象とした体験プログラム実施の場として、スポーツ指導者の研修の場として、さまざまな目的でフィールドが使用されています。研究会では、この野性の森のフィールドを見学し、野外教育における森林環

境の活用方法やプログラム内容について理解を深め、各大学が所有する演習林のフィールド活用に役立てることができれば、と考えています。また、前回と同様に、実践者の方からの発表を予定しています。茨城県における森林教育のプログラム事例について、複数題、発表していただきます。

本研究会は、日本森林学会の会員だけではなく、非会員で森林教育や近接分野の関係者にもご参加いただくことができます。みなさまのご参加をお待ちしています。

・登壇者

渡邉仁氏・高橋達己氏（筑波大学体育系）　他、事例発表者を複数名予定

・進行

遠藤知里（常葉大学短期大学部）、杉浦克明（日本大学生物資源科学部）、山田亮（北海道教育大学）

5. 参加費：　500 円
6. 対象：　日本森林学会会員または森林教育や野外教育、環境教育などの近接分野の関係者
7. 主催：　日本森林学会教育部門
8. 協力：　筑波大学野外運動研究室
9. 参加申込の締切：　2026 年 3 月 16 日（月）
10. 参加申込方法：　以下の URL（QR コード）からフォームに入力して下さい。

https://forms.gle/uoBjJD84gDbDR5t49

11. 本件問い合わせ先：

山田亮（北海道教育大学）yamada.ryo[at]i.hokkyodai.ac.jp

【11】樹木病害研究会

1. 日時：　2026 年 3 月 19 日（木）9：10～11：50
2. 会場：　筑波大学 3A 棟 3A312 教室
3. テーマ：　国内樹病研究事情―現場で何が起きているのか？―
4. 内容：　研究・教育の現場と森林の現場との間には物理的な距離が存在し、森林で実際に問題となっている事象を共有する機会は必ずしも多くない。また、樹木病害の実態や対策は地域や現場ごとに様相を異にしており、包括的な診断や防除に取り組む研究者や技術者、樹木医らは多様な課題に直面している。本研究会では、こうした地域の森林を守る最前線で活動する方々から現場に根ざした話題提供を受け、樹木病害の実情への理解を深めることで、研究および学習に対するモチベーションを高め、今後の研鑽につなげる機会としたい。

・司会進行；石原誠（森林総研九州支所）

・演者

和田尚之（道総研）

「北海道で広がるナラ枯れ―初期被害から見えてきたこと―」

二階堂太郎（科博実験植物園）；

「筑波実験植物園におけるカシノナガキクイムシ対策の事例」

陶山大志（島根県中山間地域研究センター）；

「樹木腐朽非破壊診断法の研究と社会実装―現場での倒木事故事例、研究から機器開発までの苦悩―」

5．幹事連絡先：

楠本大（東京大学）kusumotodai[at]g.ecc.u-tokyo.ac.jp

髙橋由紀子（森林総合研究所）takahashi_yukiko860[at]ffpri.go.jp

石原誠（森林総合研究所九州支所）ishihara_makoto270[at]ffpri.go.jp

【12】託児所について

1．日時：　2026 年 3 月 19 日（木）9：00 から 18：30

2．場所：　筑波大学内

3．内容：　関連集会参加者向け託児所（詳細は日本森林学会大会 HP を参照）

4．担当者連絡先：　志賀薫（森林総合研究所）shiga_kaori620[at]ffpri.go.jp

【13】関連集会会場（筑波大学 3A 棟）へのアクセス、マップ等について

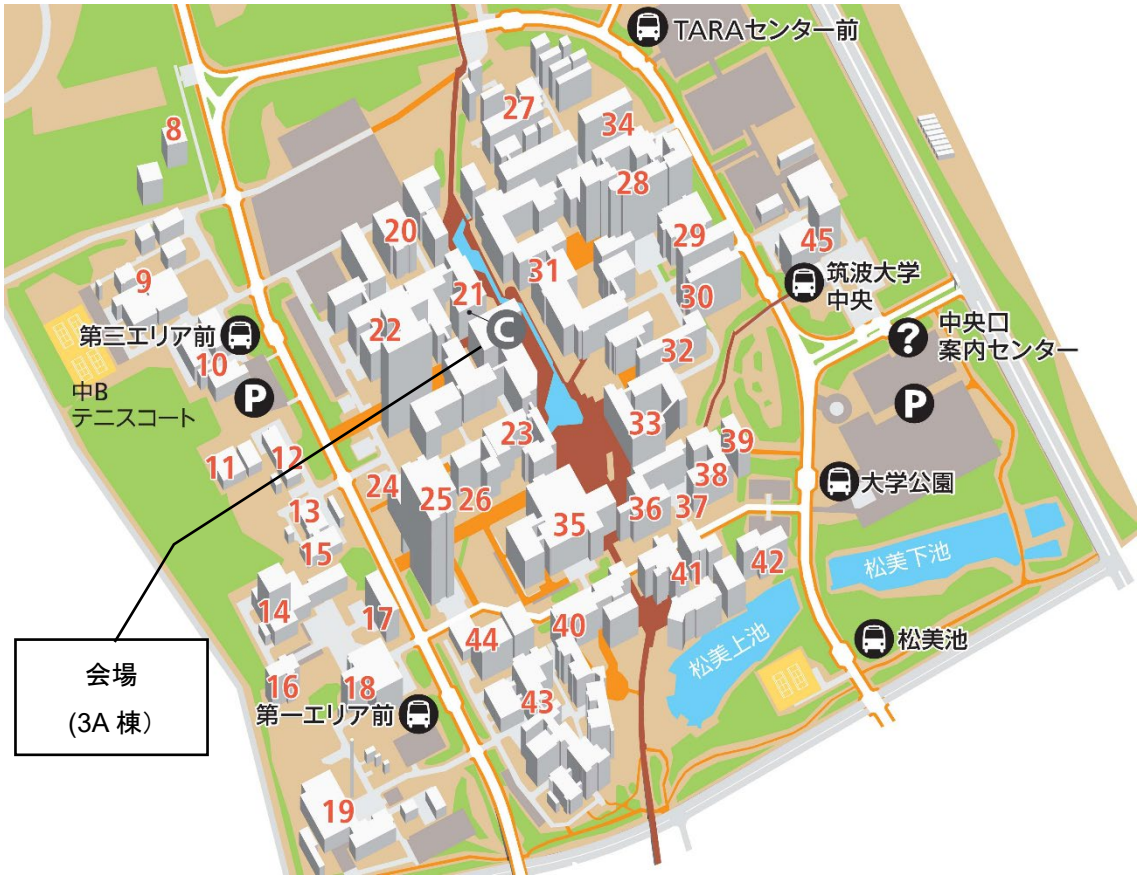
1．交通案内：　https://www.tsukuba.ac.jp/access/tsukuba-access/index.html
（「筑波大学、交通案内」で検索）

3A 棟には、バス停「第三エリア前」下車・徒歩 3 分、または、「筑波大学中央」下車・徒歩 5 分

2．キャンパスマップ：
https://www.tsukuba.ac.jp/access/tsukuba-campus/index.html

3．会場（3A 棟）の位置：
https://www.tsukuba.ac.jp/images/pdf/ut_map_tsukuba_naka.pdf
※地図中の中央付近に「C」と貼り付けてある建物が 3A 棟です。
※Google マップで「筑波大学 3A 棟」と検索すれば割と正確な地図がでます。
4．筑波大学キャンパス建物配置図・平面：
https://www.tsukuba.ac.jp/campuslife/support-campus/pdf/campusmap.pdf
※建物の配置図（第 3 エリアは 2〜3 ページ）、周辺の地図、各建物の中の教室の配置図・平面図（3A 棟は 31〜35 ページ）や各教室の設置機器一覧（3A 棟は 76〜77 ページ）も記載されています。

筑波大学筑波キャンパス中地区マップ

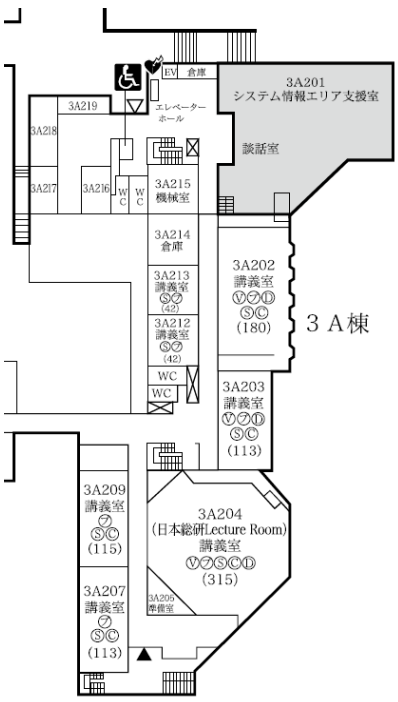


2026年2月3日修正

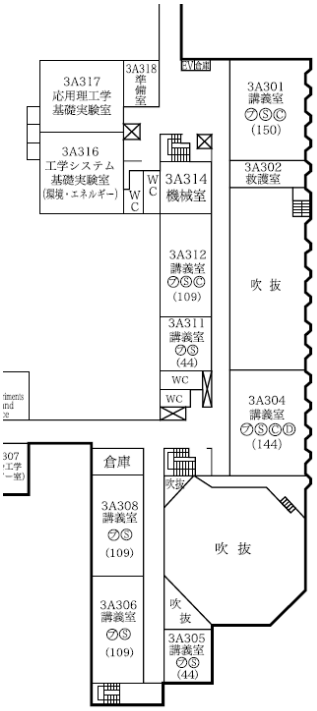
筑波大学筑波キャンパス中地区　3A 棟

2F から 4F

2F



3F



4F

